Newsletter for Chem-Bio Informatics Society Members

CBI NEWS

情報計算化学生物学会　広報誌

No.１ 2010　(2010年2月19日発行)

年頭のご挨拶

河合隆利CBI学会会長

新年、明けましておめでとうございます。世界中で記録的な寒波が押し寄せ、例年になく雪の多い新年を迎えました。みなさまの熱い研究心をもってすればどんな寒さもふっとんでしまうものと信じております。

昨年の夏、学会とは何なのだろうか、と自問したことがありました。何のために人が集まり何をなしえるのか、そのためには何をしなければいけないか、と。行き着いた答えは、学会とはある学問分野に関心のある会員のみなさまの情報収集の場、研究成果の発表の場、人脈形成の場、そして国策に意見する学術団体としての役割を持った集団である、という、ごくあたりまえの答えでした。昨年の研究講演会は１２回を数え、参加者が毎回のように100名を越えました。研究成果の発表の場のひとつ、オンラインジャーナルも投稿がコンスタントにあるようになりました。うれしいニュースとして、PubMedを運営している米国NMLからジャーナル購読希望が来ており、刊行当初より夢見てきたPubMed収載に一歩近づいた状況です。また本年はＸ線結晶解析の構造報告ジャーナルの刊行も予定しております。発表の場、人脈形成の場として最も大きな役割を担っている年会は、韓国KSBSB学会と合同で１１月初旬に釜山にて開催いたしました。インフルエンザが猛威を振るう中、380名以上の参加者(うち日本からの参加者97名)を迎え、８つのセッションからなる活気に満ちた大会を成功裏のうちに執り行うことができました。

そして国策に意見する団体としての機能はどうだったでしょう。政府による事業仕分けで科学技術予算の大幅削減が提案され、国内の多くの学術団体が意見書・抗議書・嘆願書を発表しました。しかしＣＢＩ学会は声明を出しませんでした。また、ＣＢＩ学会が主体となった国家プロジェクト提案もいまだ行ったことがありません。学会組織となり10年が経過し、新たな時代を切り拓く学術団体として活動を続けていくには国策を動かしていけるような学会のひとつにならんとする構想も必要なのかと考えております。

ＣＢＩ学会に集ってくださいました会員のみなさま、研究講演会参加者のみなさま、そして賛助組合企業のみなさまとともに学会活動を進められることに感謝を込めて、本年の挨拶とさせていただきます。

２０１０年1月１２日

ＣＢＩ学会会長　河合隆利(エーザイ株式会社)

目　次

年頭のご挨拶	ＣＢＩ学会会長　河合隆利（エーザイ）	1
2010 年の行事予定について	神沼二眞（CBI 学会事務局担当理事）	2
2009 年年次大会完了報告書	CBI 側大会実行委員長　岡本正宏（九州大学）	2
法人賛助組合の入会金撤廃が決定		4
情報計算化学生物学会法人賛助組合規約		4
CBI Molecular Structure Report (CBI MSR)創刊のご案内		5
今後の講演会予定		6

2010年の行事予定について

皆様、明けましておめでとうございます。前身であるCBI研究会の時代から数えますと、CBI学会の活動も30年に入ります。学会と名称を変更した2000年から数えると10年が過ぎました。最初の研究会の誕生はひどい難産でしたが、その後の発展は、予想を越えるものでした。これは一つに、会を立ち上げた時が、日本の経済が絶頂の時だったということによると思われます。

それ以後、IT領域ではインターネットとWWWの普及、生物医学分野ではゲノム解読技術の進歩という変化の大波に遭遇しました。そうした技術革新で大きく進歩した関心領域がある反面、30年前とあまり進歩がないように思われる領域もあります。いずれにしても、CBI学会はすでに30年ほど活動しているわけですから、会をどう運営していくかを考えるために、これからの30年を占ってみることも、意義のあることではないかと考えております。

事務局として、現在の会運営の最大の課題は、いろいろな面でバランスを回復するということです。CBI学会の活動を企画する時は、不易と流行のバランスをとるように心掛けてきました。流行は人を惹きつけますが、また飽きられることがあります。不易は重要ですが、それだけを追求するとこれもまた飽きられます。

現在のＣＢＩ学会には、年次大会、学術誌、研究講演会という、３つの主な活動があります。年次大会については、30年の総決算をしながら、経費を抑えることも目標にしています。学術誌は、これまでのCBI Journalの刊行を安定的にするとともに新雑誌CBI Molecular Structure Reportの刊行に対応します。研究講演会は、法人賛助組合などへの意義を重視しつつ、できるだけ早めに企画することを心掛けます。それ以外の活動としては、CBI Work Plazaという、Show Roomの構築を開始します。この最後の活動に関しては、まだ有志だけで構想、準備している段階ですが、本年の大会までには、より明瞭な形で提示できるようにしたいと考えております。そして最後に、事務局自体の見直しを行うことが課題です。

ＣＢＩ学会をどう運営していくべきかは、ＣＢＩ学会の目標から自ずと決まってくると考えています。その目標については、昨年の1月、3月、8月のWorkshopで議論してきました。しかし、ことを具体化していけば、いろいろな軋轢も起きてきます。その軋轢を恐れては、新しい時代に適応していくことはできないでしょう。

ＣＢＩ学会のような非営利の組織は、お互いに命令権のない自由な個人に支えられています。そうした組織が成り立つためには、参加者にとって、意義があることと、面白いことが絶対の条件でしょう。本年もこの基本理念を見失うことなく、会の30年の活動を見直し、これから30年は続くような会を考えてみたいと思います。

昨年から多田理事と小長谷理事が事務局担当理事に加わってくださいました。今年は、意見を交換する機会をもっと設けられると考えております。具体的には、研究講演会の後に、非公式の情報意見交換会を開くようにします。皆様お気軽にご参加ください。

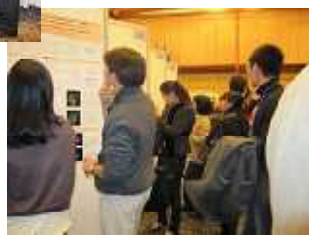
CBI学会事務局担当理事　神沼二眞

2009年年次大会完了報告書

概要

CBI学会の本年の年次大会は、韓国のKSBSBとの合同開催として、2009年11月4-6日に、釜山（海雲台グランドホテル）で開催された。本会への日本からの参加者は、97名、韓国のそれは290名、合計387名、招待講演者44名、ポスター発表150件であった。この数値は、韓国の主催者にとっては、予想を上回る数であった。日本からの参加者数は、読み難く、厳しい経済情勢や、新型インフルエンザの影響が予想された厳しいものであり、CBI学会の準備関係者もできる限りの努力をしていたが、結果としては、全参加者の約4分の１にあたる数となったことで、応分の役割が果たせたと考えている。

今回のCBI学会としての本大会の意義は、海外で開催としては、もっとも参加者の負担を少なく抑えられることと、この分野の研究人口の伸びが著しい韓国の状況を知ること、相互の研究交流の活性化させることであった。韓国側の学会準備関係者によれば、日本からの講演者や発表者が多かったこと、またその内容が非常に興味深いもので、大変意義があり、また、参加者も当初の予想を大幅に越えるものであり、375部ほど印刷した予稿集が足りなくなったほどで、KSBSBとしては、財務的にも大成功であったと評価された。



ポスター会場風景

財務報告

日本からの参加費、協賛費（展示やランチオン・セッション）は、すべてKSBSBの収入として計上された。それ以外の、日本で集めた寄付金と日本で呼び掛けて予稿集に載せた広告の掲載費のみが、今大会のCBI学会の収入となった。なお、協賛として、ワールドフュージョン社がアリアドネ社と共同で、展示ブースとランチオン・セッションを支援してくださった。

招待講演とポスター発表

Tutorialを含む招待講演者の数は、ほぼ韓日同数であり、ポスター発表は、日本から、70件、韓国が80件だった。日本からの講演者が、それぞれの分野で長く活躍している研究者が多かったのに対し、韓国側の発表は、研究経歴が浅いものが多いような印象を受けた。また地元開催のためか、全体として韓国の参加者や発表者の若さが感じられた。なお今回の参加者、発表者の所属は、大学や国立研究機関などが多く、企業からの参加者は少なかった。日本の研究者にとっては、これまで関心の薄かった韓国の同じ分野の研究者の仕事を知る良い機会になったと思われる。

KSBSBの収支報告

Income	Won	Yen
Registration fee	30,986,090	2,383,545
＊Korea	18,555,000	1,427,308
＊Japan	12,431,090	956,238
Fund raising	41,700,000	3,207,692
Cruise fee	1,635,000	125,769
Extra	200,000	15,385
Total	74,521,090	5,732,392

Expense	Won	Yen
Hotel Rental and Expenses	34,112,804	2,624,062
Honorariums	11,600,000	892,308
Proceedings	3,563,010	274,078
Suvenior and awards	2,810,000	216,154
Luncheon and coffees	4,368,340	336,026
Communications and extra	5,170,000	397,692
Total	61,624,154	4,740,320

Profits	Won	Yen
	12,896,936	992,072

開催場所

開催場所となった海雲台（ヘウンデ）は、済州島につぐ韓国第２の人気のあるリゾートスポットであり、会場の海雲台グラウンドホテルは、海雲台海岸に面した高級リゾードホテルであるが、オフシーズンのため、普段より安く借りられたとのことも幸運であった。大会２日目には、晩餐会があり、その後９時半からナイトクルーズがあった。晩餐会も参加者が多く、当初予定の会場では入りきらず、第２会場、第３会場が急遽設営された。2時間ほどのナイトクルーズにも、170名の参加者があり、下船してホテルに戻ると12時を回っていた。韓国側から、このような学会以外の機会を設定してもらえたことで、ゆっくりお互いに話し会える得難い機会を得たとの声が多く寄せられた。

その他

この大会時に、CBI Journalの編集委員会と2011年大会準備委員会を開催した。

記録

今回の講演などの録音（録画）記録、は、KSBSBがサイトに置く予定であり、閲覧可能となったらお知らせする。また予稿集は、事務局の保管用に20部を送付してもらうこととした。事務局でも、講演や会場の写真を撮っている。

11/06/2009

CBI側実行委員長　岡本正宏（九州大学）

Banquetにて、SpeakerとChairら

２日目　ナイトクルーズ

法人賛助組合の入会金撤廃が決定

ご存知のとおり現在の厳しい経済環境の下、多くの企業において業務の見直しや経費予算の縮減などが検討されています。最近の入会希望企業数は飽和の傾向を示していますが、一方ではＩＴ分野の技術動向や情報確認の必要性を有し、重きをおく未参加企業も存在しており、法人賛助組合としても是非そのような企業に本組合に参加いただいてアクティブな会員活動を進めていきたいと考えております。現在、法人賛助組合に入会希望の意思があるものの入会金が会社判断に際して障害になっている事例もあり、これまで役員の間で議論されてきた入会金の撤廃を法人賛助組合員へ提案しました（2009 年12 月８ 日）。その結果、2009 年12 月末日までに、賛同の意思を表示される会員はありましたが、反対のご意見がありませんでしたので、来る４月１日付けで規約の改定を行って入会金を撤廃することとし、規約第７条第２項を削除することに決定しました。

情報計算化学生物学会法人賛助組合規約

（2010 年２月１日に改正）

第１条
この会は、「情報計算化学生物学会法人賛助組合」（以下本会と略記する）と称し、略称をＣＢＩ法人賛助組合とする。

第２条
本会は、「情報計算化学生物学会」（以下ＣＢＩ学会と略記する）規約第６条２項及び第21条にもとづき、CBI 学会運営のための経費の管理、執行を目的とする。
２．本会は学会の目標に沿った活動を効果的に展開するために、情報や意見を交換し、会に提言し、その実行において協力する。

第３条
本会の事務局は、東京都世田谷区用賀４-３-16 におく。

第４条
本会は、ＣＢＩ学会に参加する法人会員により構成される。

第５条
本会には、代表をおく。
２．代表は、CBI 学会の代表と本会の会員により選出される。
３．代表の任期は１年とする。但し、再任を妨げない。

第６条
代表は、会員及び事務局の中から会計監事及び会計幹事を任命する。
２．会計監事及び会計幹事の任期は１年とする。但し、再任を妨げない。

第７条
会員は、CBI 学会の運営賛助費として参加費を納入しなければならない。
２．会費は年30 万円とする。
ただし、年度の下半期の入会、上半期の退会に関しては、会費の半額（15 万円）を請求する。

第８条
資金の運営は、CBI 学会の趣旨に従い、CBI 学会事務局からの執行依頼により運営される。

第９条
本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31 日に終わる。
２．代表は、毎年１回３月末日の会計報告を行う。

第10 条
本会は、ＣＢＩ学会が解散した時点において、すみやかに解散する。
２．本会の残余資産に関しては、CBI 学会の設立趣旨に沿った処理を講じる。

第11 条
本規約に定めない事項または、本規約の解釈あるいは会の運営に疑義を生じた場合には、代表に申し出ることができる。代表は会員の協議にはかり、これに対処する。

付則
1. この規約は1991 年７月１日より実施する。
2. 1993 年１月８日に第７条3. のただし書きを追加。
3. 1997 年10 月７日に第３条の所在地を変更。
4. CBI 学会の名称が2000 年４月１日より情報計算化学生物学会に変更したのに伴い、本会の名称を情報計算化学生物学会法人賛助組合に変更。
5. 2002 年３月20 日に第２条２項を追加。
6. 2010 年２月１日に第７条２項（入会金は30 万円とする）を削除する。
7. 2010 年２月１日に第７条３項を第７条２項とする。

CBI Molecular Structure Report (CBI MSR)

創刊のご案内

CBI学会の多くの会員は、結晶解析の結果を活用する立場ですが、結晶構造データは、分子設計のための力場やソフトウェア等の開発はもとより、実用的な分子設計を行う上で極めて大切な基礎データです。これまでCBI学会が主催してきた300回を超える研究講演会においても、多くの結晶学研究者の方々にご講演頂いて参りました。

構造解析装置やソフトウェアそしてコンピュータの進歩により、以前にも増して多くの興味深い構造が明らかにされています。しかし、それら貴重な構造に関する論文の多くが、R因子などの基準を満たさないために、結晶学専門誌(例えば*Acta Crystallographica*)では受理されないことは少なくありません。また基本的な分子の、より精密な構造解析（分子設計上は重要です）に関する論文も、結晶学専門誌では受理が敬遠される傾向にあります(既に類似分子がCSD中にある、という理由で)。さらに、塩の種類により微妙に構造が異なることは医薬分子などの場合によく見られることであり、医薬分子を設計する上では貴重な情報の一つですが、異なる塩の構造解析も専門誌では受理されることが難しくなっています。

従って、分子設計を行う立場の研究者からは極めて有用な多数の構造が未公開のまま死蔵される傾向にあります。このような傾向は、単にこうした構造を活用する側から非常に残念なだけではなく、貴重な資源を消費して得られた科学的にも価値のある基礎データが未公開のまま埋もれさせることを意味し、大きな社会的な損失であるとも言えます。

そこで、死蔵される可能性の高いこれらの「貴重な構造をより多くの研究者に公開する」ことを目的にして、ＣＢＩ 学会では構造解析結果を受理する論文誌ＣＢＩ Molecular Structure Report(CBI_MSR)を2010年8月から発刊することに致しました。また、投稿者の論文作成に使う労力を最小限に軽減することができれば、更に多くの構造の公開を促進することが可能であると考え、投稿規定もできるだけ簡素化致しました。さらに、論文審査にご協力頂くco-editorの先生方には、「貴重なデータの公開の場を広げる」という趣旨を十分ご理解頂き、親切で建設的な審査を心がけるようにお願いしております。一部の学会誌に見受けられる「重箱の隅をつつくようなコメントをして却下する」ということは本誌では絶対にないように努めたいと思っております。

是非、貴研究室で得られた貴重な構造解析データを公開して頂きたく、ご投稿を心よりお待ちしております。またお知り合いの研究者の中に、公開をしていない貴重なデータをお持ちの方がおられましたら、本誌へのご投稿を是非呼びかけて頂ければ幸いに存じます。これから誕生する本誌にはまだimpact factorが付いておりません。可能な限り早期にimpact factorが付与されるように運営していきたいと思っておりますが、それには皆様方からの１報でも多くの良質な投稿論文が必須になります。

何卒、本誌の活動の趣旨をご理解の上、貴重な分子構造に関する論文を是非とも CBI Molecular Structure Report にご投稿頂きたく、お願い申し上げます。

東海大学医学部 平山令明

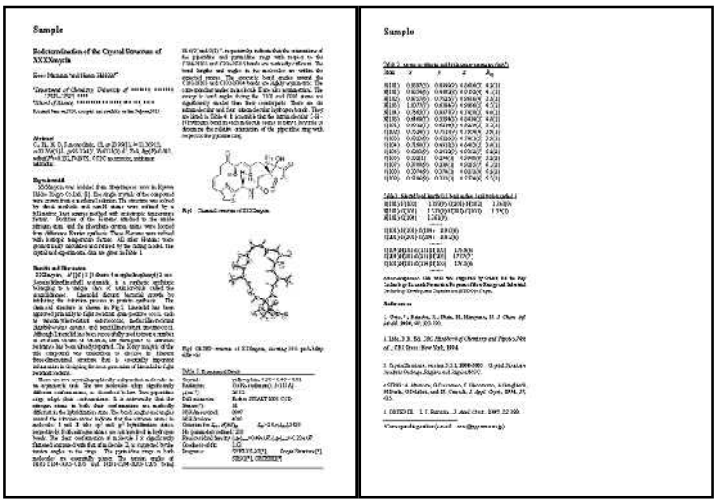
CBI Molecular Structure Report
(CBI MSR) 編集委員会

編集委員長
平山令明（東海大学医学部）

編集委員
青木克之（豊橋技術科学大学物質工学系）
石田寿昌（大阪薬科大学）
甲　千寿子（東北大学大学院工学研究科）
北川康行（昭和大学薬学部）
清谷多美子（昭和薬科大学）
田中清明（名古屋工業大学大学院）
与座健治（ブルカー・エイエックスエス（株））

CBI Molecular Structure Report (CBI MSR)
のサイトは３月末に公開予定です。

CBI MSR Sample ページ



本年の講演会予定

1月12日（火）　新春ワークショップ「Chem-Bio Informaticsの新しい地平線」
神沼二眞（CBI学会事務局）、木賀大介（東工大院）、田中博（東京医歯大）
八尾徹（理研）

2月19日（金）　講演会：経路網からの薬物標的探索
世話人：川原弘三（株式会社ワールドフュージョン）、神沼二眞（CBI学会事務局）
講師：井元清哉（東大医科研究所 ）、鈴木 仁（北陸先端大学院大学 ）、
長谷武志（東京医科歯科大学）、Anton Yuryev (Ariadne)

3月23日（火）　講演会：e-ADMET構築に向けて２：吸収性を支配する薬物物性と腸管代謝
世話人：水間俊（東京薬科大学）、粕谷敦（第一三共）
講師：高野隆介（中外製薬）、高木敏英（大日本住友製薬）、
小村弘（日本たばこ産業）、高橋雅行（第一三共）

4月12日（月）　講演会：RNA創薬への道
世話人：杉山雄一（東大薬）、中井謙太（東大医科研）
講師：塩見美喜子（慶大医）、三宅淳（阪大院工）、堀本勝久（産総研）、
廣瀬哲郎（産総研）、片岡一則（東大院工）、中村義一（東大医科研）

5月26日（水）　講演会：イオンチャネルの精密機能を構造から読み解く
世話人：森泰生（京都大学）、澤田光平（エーザイ）
講師：三尾和弘（産総研）、久保義弘（生理学研究所）
森誠之（福岡大医）、（講師交渉中）（エーザイ）

6月

7月

9月15日（水）～17日（金）　CBI学会大会　CBIの新しい地平線
会場：学術総合センター　一橋記念講堂他　（東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号）
実行委員長：中田吉郎（群馬大学）

9月26日（日）～28日（火）　InCoB10　**会場：早稲田大学**　http://incob10.hgc.jp

10月

11月4日（木）　粉末X線解析（仮題）　世話人：平山令明

12月

◆月例の研究講演会への希望やご意見、あるいは企画案がありましたら、事務局（cbistaff@cbi-society.org）までご一報下さい。

◆CBInewsやホームページへの広告を歓迎します。またテーマに関連した製品等のパンフレットを研究講演会の参加者へ配布するサービスも承っております。

発行：情報計算化学生物学会(CBI学会)事務局 〒158-0097 東京都世田谷区用賀 4-3-16イイダビル301
Tel.03-5491-5423　Fax.03-5491-5462　cbistaff@cbi-society.org　http://www.cbi.or.jp/